

令和2年2月28日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）就任3年目を迎える教育長の決意について

就任以来、学校や市町教育委員会に対して、自身の教育理念や施策等を県内に浸透させるため、どのように取り組み、そして、現在、どの程度浸透してきていると認識しているのか、また、現在の任期の最後の年度となる来年度は、どのように取り組むのか、併せて教育長の決意を伺う。

（答）

私は、教育長に就任して以来、学びの変革を更に推進するため、現場主義を掲げ、全ての県立学校と市町教育委員会や小中学校等の訪問などを通じて、教職員や児童生徒の声に耳を傾け、教育環境や児童生徒の実態を自ら把握し、その状況を踏まえた施策を展開しているところでございます。

こうした施策を推進するため、学校の教職員や市町教育委員会の職員を対象とした、「教育長とこれからの学校教育の在り方について語る会」を何度か開催し、参加者と率直に意見交換を行ったり、市町教育長会議や市町教育委員会への訪問等の機会を捉え、私の教育に対する考えなどについて、対話を重ねているところであり、本県の教育施策等は、浸透してきているものと考えております。

就任3年目となります令和2年度におきましては、これまでの取組を継続・発展させることを基本としつつ、何より、学校の教育活動の中心となる日々の授業が大切であると考えており、県内全ての学校で、子供たちの「主体的な学び」を促す質の高い授業が実践されることが重要であると考えております。

このため、新たな施策といたしましては、

- ・ 個別最適な学びに係るカリキュラムの実証研究や、
- ・ 新たなプロジェクト型学習の推進に向けた教員研修の在り方の見直し、
- ・ 探究的な学習活動の充実に向けたICTを基盤とする環境整備

などに取り組むこととしております。

私といたしましては、引き続き、市町教育委員会や学校と連携しながら、こうした施策を確実に実施し、子供たちが将来の夢を描き、自立した社会人として、国内はもとより、世界で活躍できるような「人づくり」を進め、「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現」に向けて、全力を尽くしてまいります。